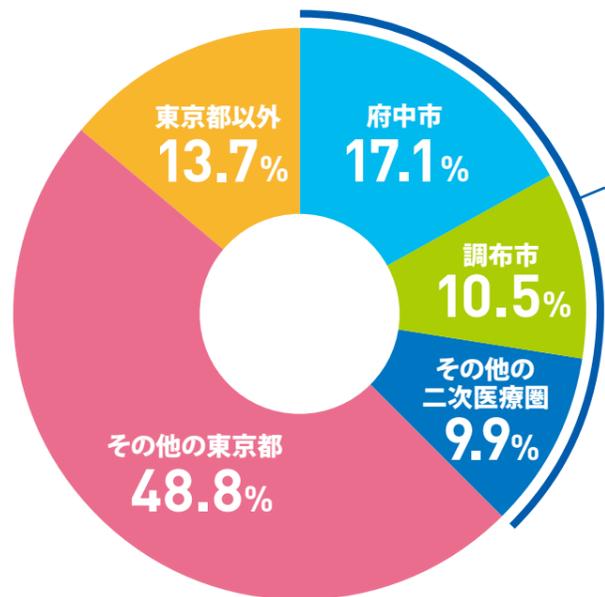


# 脳卒中・心臓病等総合支援センター

「令和6年度脳卒中・心臓病等総合支援センターモデル事業」において、東京都の実施法人として国から選定されており、広域の患者さんを支援しています。

## 地域別患者さん割合(2023年)



### 【北多摩南部二次医療圏】

府中市、調布市  
武蔵野市、三鷹市、  
小金井市、狛江市

## 登録医として共に地域医療の充実を目指しませんか？

### 【共同診療】

診療情報提供書による情報共有を原則としており、迅速に情報提供に努めています。

### 【手術後の患者さん】

退院1週間後、半年後、1年後に外来にてフォローアップします。

### 【登録医サービス】

CT/ファストエコー検査の受付、WEB講演会等による循環器診療に関する情報発信をしています。

### 【モバイルCCU\*】

心臓病専門救急車モバイルCCUを導入しています。同車に心血管疾患に対応できるスタッフが同乗し、当院まで緊急患者さんの搬送を行います。

※Mobile Cardiac Care Unit  
(移動式心臓集中治療施設)



## 登録医にご関心のある方は、ぜひ下記までご連絡ください

医療機関専用 TEL.042-314-3142 (平日8:30~17:15)

医療機関専用 FAX.042-314-3199

公益財団法人 榊原記念財団 附属 榊原記念病院

〒183-0003 東京都府中市朝日町3-16-1 代表電話 042-314-3111  
<https://www.hp.heart.or.jp>



公益財団法人 榊原記念財団 榊原記念クリニック

〒163-0804 東京都新宿区西新宿2-4-1 新宿NSビル4階 代表電話 03-3344-3313  
<https://sakakibara-heart-cl.jp>

※2024年12月、新宿駅南口に移転予定



身体に優しい負担の少ない先端の治療

## 低侵襲心臓病 総合治療センター

## 技術で身体を守り、 信頼で心を癒す

低侵襲心臓病総合治療センターは、侵襲的治療による身体への影響を最小限に抑えた手術と最善の医療ケアを提供し、患者さんならびにそのご家族のより良い生活の質向上とご満足いただける治療を目指し設立されました。

循環器専門病院として、専門職種間の緊密な連携をベースに全職種がワンチームとなり、患者さんとそのご家族に寄り添う治療をお約束します。

低侵襲心臓病総合治療センター センター長  
心臓血管外科 主任部長 **岩倉 具宏**

### 【低侵襲心臓病総合治療センターの治療】

#### 先進的な技術

低侵襲手術の提供

#### ハートチーム\*

症例検討  
最適な治療計画

※複数の部署から構成される  
心血管疾患対応チーム

### 患者さん中心の アプローチ

#### 一貫した治療提供

多診療科・多職種による  
包括的治療体制

#### 質の高い術後ケア

術後から始まる一貫した  
心臓リハビリテーション

#### 地域貢献

地域連携体制構築  
医療水準向上

#### 副センター長



循環器内科  
主任部長 **七里 守**

【専門】  
・循環器一般  
・虚血性心疾患  
・成人先天性心疾患の  
カテーテル治療

循環器内科は外来受診者の窓口であり、冠動脈、構造的な心疾患、先天性心疾患に対するカテーテル治療を行う診療科でもあります。多くの方にメリットがある低侵襲治療の安全基準をクリアして常に新しい治療法に積極的に取り組んでいます。



循環器内科  
部長 **関口 幸夫**

【専門】  
・循環器一般  
・不整脈疾患

侵襲度の低い、先進技術を用いた不整脈疾患の治療を行っています。多診療科・多職種と密に連携をとることで、ペースメーカーや植込み型除細動器などのデバイス治療や、カテーテルアブレーション治療など、安全性に配慮しながらご提供します。



小児心臓血管外科  
主任部長 **和田 直樹**

【専門】  
・先天性心疾患全般  
・新生児期心臓外科治療  
・成人先天性心疾患の外科治療

「低侵襲手術」をモットーに日々治療に取り組んでいます。低侵襲手術への取り組みは多岐にわたっており、人工心肺装置の小型化や無輸血開心術の適応拡大、術後の回復を早める小切開手術など、個々の患者さんに合った術式をご提案します。



心臓リハビリテーション室 室長  
循環器内科  
副部長 **中山 敦子**

【専門】  
・循環器一般/心筋症  
・心臓リハビリテーション  
・両立支援/遠隔医療

術後早期に心臓リハビリテーションを開始しています。多職種チームで365日リハビリテーション指導を行い、退院後は円滑な社会復帰のために薬剤調整、生活支援、運動指導、栄養指導、心理カウンセリングを行っています。

#### Features

## 当院における低侵襲治療の3つの特徴

- 1 最新機器と先進的技術による安全で負担の少ない治療  
※痛み軽減、感染リスクの低下、小さな切開を実現しました。
- 2 多様化・複雑化する循環器疾患に対応する専門チーム
- 3 多職種による復帰に向けた充実のリハビリテーション

# 治療の流れと特徴

低侵襲治療により、「短期入院」「早期回復」が可能になりました。  
また、これまで手術等を断念し対症療法を選択していた高齢者や合併症を抱える患者さんおよび小児に対しても手術による治療の道が開かれました。  
特に小児においては国内でも有数の治療成績を誇っています。



紹介元との連携  
定期検査



入院

## ハートチーム<sup>※</sup>による検討

※複数の部署から構成される  
心血管疾患対応チーム

## 低侵襲治療

経カテーテル的大動脈弁留置術  
(TAVI)

完全3D内視鏡アプローチ  
(3D-MICS)

左前小開胸冠動脈バイパス術  
(MICS-CABG)

胸腔鏡補助下右前小開胸アプローチ  
(RAT-MICS)

など

術後

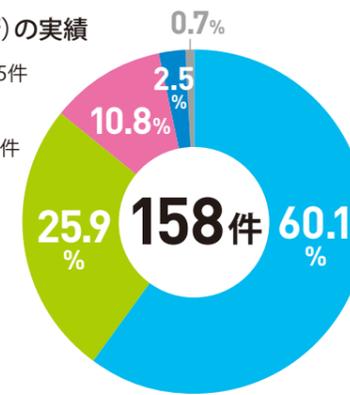
## リハビリテーション 退院支援

- ・退院支援カンファレンス
- ・退院調整
- ・心臓病総合支援センターでの患者相談



MICS (低侵襲心臓手術) の実績

- 僧帽弁形成術/置換術 / 95件
- 大動脈弁置換術 / 41件
- 心房中隔欠損修復術 / 17件
- 冠動脈バイパス術 / 4件
- その他 / 1件



年次別手術件数 (末梢血管、その他の手術除く)

年	2021	2022	2023
内訳			
成人	995	975	934
小児	351	349	367
合計	1,346	1,324	1,301

成人

カテーテル治療はもとより、  
先端の外科的治療を  
低侵襲下で実現

- ◆ 手術の年齢上限はなく、状態に合わせた、安全かつベストな手術を選択
- ◆ 多職種連携による術前の診断から術後の経過観察まで最良の治療を提供
- ◆ 術後早期からの心臓リハビリテーション介入による早い回復
- ◆ 退院後も長期にわたり患者さんをフォロー

小児

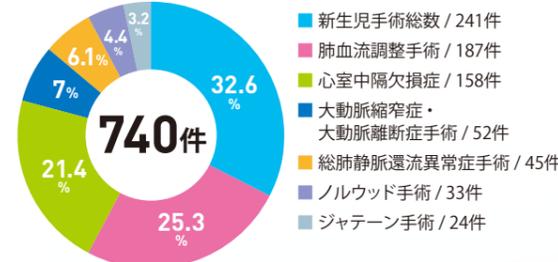
世界でも最小クラスの充填量、88mLの人工心肺回路を運用 無輸血による体外循環が可能

※適応条件あり

- ◆ 無輸血、短時間による低侵襲心臓手術
- ◆ 段階的手術や成人期における再手術、再々手術の対応
- ◆ 小児循環器内科や産婦人科との診療体制
- ◆ 院内に設置された「ドナルド・マクドナルド・ファミリールーム 榊原記念病院」では、ご家族を含め手厚くフォロー

小児手術実績 1万3,000人 1歳未満 740件 (2018-2022年)

年間約450件の小児手術を行っており、2018年以来1万3,000人にのぼる先天性心疾患の患者さんを治療してきました。  
そのうち1歳未満の手術実績は累計で740件です。



CASE

心室中隔欠損症(男児)  
低侵襲手術の術後経過



術後1週間  
(生後9ヵ月)

術後3ヵ月  
※正面からは見えない



ドナルド・マクドナルド・ファミリールーム  
榊原記念病院

2023年12月  
オープン!



入院中のお子さんのすぐそばにある心地良い家庭的な空間です。小児病棟に入院中の患児に付き添うご家族が利用できます。

# 各種治療と実績

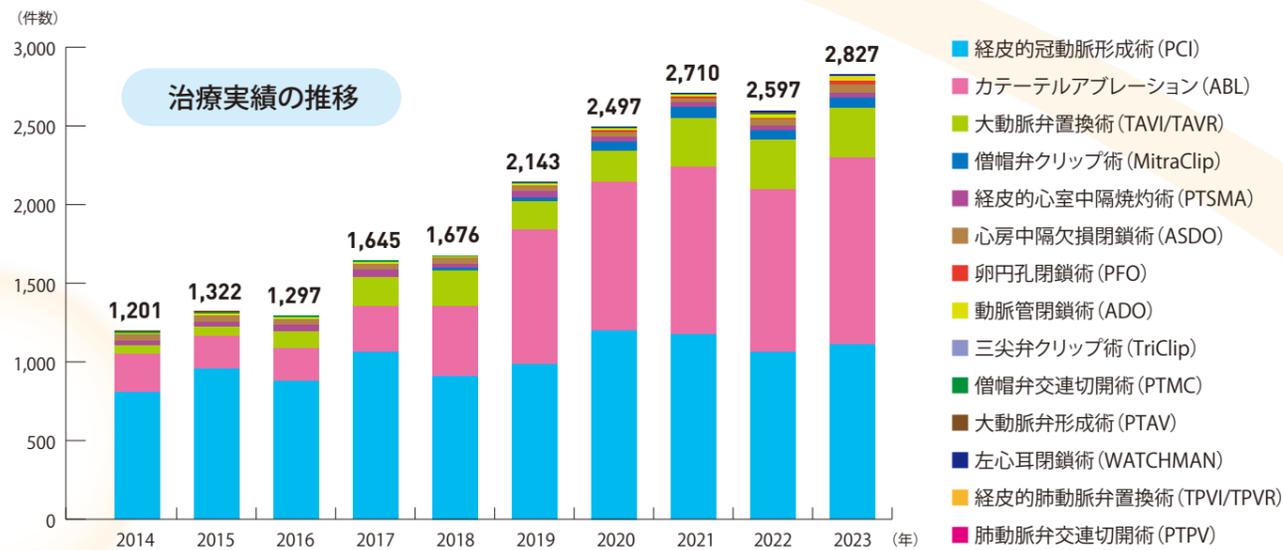
50名以上の循環器専門医が所属し、年間4,000件以上の救急を受け入れ、先進的な医療機器により、難易度の高い複雑病変やハイリスク症例にも積極的な対応を行っています。

また、心臓リハビリテーションにおいては国内でもいち早くプログラムを導入し、先進的な研究も行っていきます。

## カテーテル治療 合併症や重症化かつ複雑化への適切な対応

循環器疾患は高齢化が進み、合併症も多く、重症化かつ複雑化しています。当センターでは、自覚症状と精密な評価を組み合わせ、多職種合同カンファレンスで最適な治療法を決定しています。特に低侵襲による術後の生活の質を重視しています。

## 主なカテーテル治療 2,827件/年(2023年)



## 不整脈治療 多様な不整脈疾患に対応

内科治療に加えて、カテーテルアブレーション、ペースメーカー・除細動器などの植込み機器による治療を実施しています。ペースメーカー植込み後は、遠隔診療によりモニタリングを行っています。リード抜去、カテーテルによる左心耳閉鎖術 (WATCHMAN)、外科的心房細動治療 (MAZE手術、WOLF-OHTSUKA法) も行っています。心房細動アブレーションの7割は、手術時間が短く患者負担の少ない、クライオアブレーション (冷凍凝固) で行っています。



## 大動脈弁治療 僧帽弁治療 低侵襲治療への積極的な取り組み

## 大動脈弁治療 584件/年(2023年)



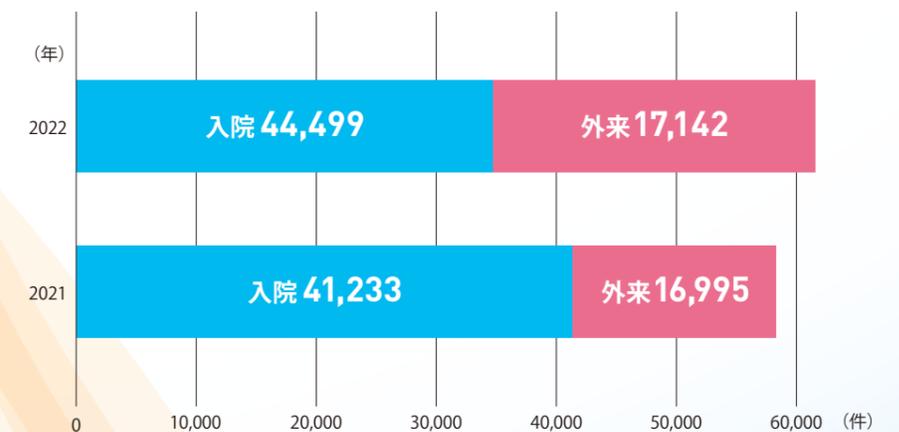
## 僧帽弁治療 304件/年(2023年)



## 心臓リハビリテーション

## 心臓リハビリテーション件数(2021 / 2022年)

## 6万1,641件/年(2022年)



心臓手術の翌日や、心筋梗塞の急性期からリハビリテーションを導入しています。退院後も運動療法に加えて、生活・栄養指導や薬剤管理、就業・復職まで含めた包括的リハビリテーションを積極的に行っています。